

## 審査の結果の要旨

氏名 岩元 真明

岩元真明氏の論文「カンボジアの建築家ヴァン・モリヴァン(1926-2017)に関する建築史的研究：国家揺籃期における建築家の課題」は、カンボジアの近代建築家ヴァン・モリヴァンの活動を詳細に分析することを通じて、近現代建築史を新たな角度から照らし出そうとするものである。

カンボジアの植民地時代から独立以後の長い期間を、同地の重要建築家として生きたヴァン・モリヴァンに関する本論文は、カンボジア内戦の影響によっていまだ未知の事柄が多いカンボジアの近現代建築史の一端を解明するのみならず、非西洋社会の建築が歩んだ道程を理解する上でも重要である。しかし、非西洋社会の建築に関する研究は、史料の発掘から始める必要がある。本研究において、岩元氏はヴァン・モリヴァン本人および関係者にインタビューを行うと同時に、内戦によって失われたと考えられてきた図面などを新たに発掘し、また、カンボジアのみならず、日本、フランスでの史料調査の成果を縦横に盛り込んでいる。さらに、本論文は、ヴァン・モリヴァンという一建築家、カンボジアという一国の建築史研究を乗り越え、「国家揺籃期における建築家」という普遍的テーマに切り込もうとする意欲的な研究である。

本論文は全体が序論、5章からなる本論、結論から構成され、ヴァン・モリヴァンの主要作品を解説した資料編1とインタビュー内容をまとめた資料編2がこれに加わっている。本編の各章は、1) 自己形成と職能形成、2) ナショナル・アイデンティティの表現、3) 気候風土への適応、4) 現地資源の活用、5) 人材確保という5つの国家的な課題と対応している。この各章での議論を通じて、ヴァン・モリヴァンの活動が詳細に分析され、ヴァン・モリヴァンは20世紀なかばに相次いで独立を果たした東南アジア諸国の建築家たち、そして、西洋社会からの自立を目指した非西洋社会の建築家たちの活動を比較検証するロールモデルとして立ち現れる。岩元氏は、ヴァン・モリヴァンとこれら非西洋社会の建築家たちを比較し、そこに様々な共通項を認め、非西洋の国家揺籃期の建築家たちに共通する近代的な思考形式を明るみにだし、それを欧米列強からの独立を確立するためのプロセスと位置づけることに成功している。さらに、各

課題を俯瞰することによって、1950～60年代におけるヴァン・モリヴァンの活動が、旧植民地体制の継承から国際援助の積極的利用を経て、現地資源（そこには人材の育成も含まれる）を最大限活用する自立へと向かったという結論が導かれている。このようにして、建築分野における脱植民地化のプロセスが意匠・計画・歴史・技術・施工・材料・人材育成といった多様な分野を包含した立体的な著述によって描かれており、審査員一同はその各部分および全体に新しい建築史の出現を見た。

本論文は、カンボジアの近現代建築史のきわめて重要な一部分を描き出すことに成功しており、さらにそれを通じて、たんなるインターナショナルな近代主義や、それに対抗するコンセプトとしての地域主義ではなく、非西洋の状況に基づいたトランスナショナルな近現代建築史を描き出す可能性を提示している。このような研究の意義の大きさを、審査員一同は高く評価した。

よって本論文は博士(工学)の学位請求論文として合格と認められる。